

大雄山最乗寺

令和元年7月第3週放送

箱根の山と相模湾の間に位置する、神奈川県小田原の程近く、箱根明神ヶ岳の麓に、七百段を超えるといわれる石段を有する大雄山最乗寺があります。

お寺を開かれた了庵明禪師は、峨山韶碩禪師、通幻寂霊禪師の教えを受け、大本山總持寺の住職をお勤めになりました。

その後、慧明禪師は五十代半ばに、大きな驚に導かれその啓示によってこの山中にお寺を建立された、とされています。時に應永元年（一、三九四年）三月十日の事でした。

大雄山最乗寺は、この地域では「道了さん」と呼ばれて親しまれています。その名の由来である道了尊者は、もとは修験者として修行をされていましたが、慧明禪師がお寺を建立される事を聞き、空を飛んで禪師のもとに参じ、土木の作業に従事して約一年にしてこの大事業を完遂したといわれています。その力は五百人力と言い伝えられるほどの怪力で、道了尊者が投げおいたと伝えられる「一擲石」や、道了尊者が杖にかけて運んでこられたことから「道了鐘」とも呼ばれる大きな梵鐘に、その足跡が偲ばれます。

師匠、慧明禪師が亡くなられた翌日、道了尊者は、天狗の姿に身を変え、残るお弟子さんたちに、「永遠に、お寺とお参りに来た皆さんをお守りする」といい残し、山中深くに飛び去っていったと伝えられています。その後、道了尊者の遺徳を偲び建立された、御真殿（妙覚宝殿）には、大きな天狗の姿をした道了尊者が、大雄山の守護仏妙覚道了大薩埵として、祀られています。道了尊者の、師匠から伝わる仏の教えを守りお寺とお参りに来た皆さんを守るという誓願により、後世、現代にいたるまで多くの参詣者を集めています。

天狗の伝説とともに地域に親しまれる大雄山最乗寺では、毎月第二・四日曜日、午後一時か

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

ら日曜参禅会が開催されています。参禅会では、坐禅と信徒会館での法話が行われています。

また、八月に「子ども禅の集い」と「夏期禅学会」も開催されます。道了尊者の^{れいげん}靈験に触れながら、大自然の中で自己に向き合う機会とされてみてはいかがでしょうか。

— 終 —